



学校だより

(6月号) 令和4年5月31日発行

<http://shibiraki-e.saitama-city.ed.jp/>

【学校の教育目標】

- ◎ 夢 (ゆめ) にむかって ともに学びあう学校
 - ・すすんで勉強する子
 - ・自分からあいさつのできる子
 - ・仲よくたすけあう子
 - ・じょうぶな子

《今月の生活目標》 友達の輪を広げよう

いじめ防止について考える

～リーダーとボスの違い～

校長 白石 徳一郎

田んぼは田植えが終わり、稲はいよいよ大地の栄養を吸収して、これから大きく生長していくことでしょう。子どもたちもクラスに慣れ、友達と集団生活を送る中で、たくさんの経験を通して、成長していくことと思います。6月は雨が多く、子どもたちにとっては外で遊べない、蒸し暑いストレスの多い季節です。また、クラスに慣れて、人間関係のトラブルが起きやすい時期でもあり、例年、6月はいじめ撲滅強化月間になっています。そこで、今月は集団づくりを通じた、いじめ防止について考えてみたいと思います。

学校生活の中では、学級会の司会、係活動のリーダー、班の班長、朝の会などを進める日直など、様々な機会を通して、話し合いを進めたり、まとめたりするリーダーの役割を経験できるように工夫しています。高学年になると、クラブ活動や委員会活動、通学班の班長などを通して、上級生がリーダーシップを発揮できる機会もあります。人の前で話すのは苦手という子は当然ですが、社会に出たときに困らないためには、子どものうちに少しでも経験して慣れておくことが大切だと思います。

子どもの中には、集団をまとめることが得意な子、信頼されている子など、リーダーの資質が備わっている子がいます。大人の社会でも、頼りになる人、人望のある人、尊敬できる人など、ぜひリーダーになってほしいと思える人がいますが、**リーダーに共通することや大切なことは何でしょうか？**

私がかつて担任した男の子で「えのちゃん」と呼ばれている子がいました。えのちゃんは、小柄な体格で、運動はまあまあできる方で、勉強は普通、けんかが強いとか、口が達者というわけでもありませんでしたが、人望があり、リーダーの資質は抜群でした。遊びの中でもめごとがあると、「どうしたの?」と話を聞きに行きます。すると、カッとなりやすい体格の大きい子がえのちゃんに不満を一生懸命伝えます。相手の子も体格がよく、どちらの子もえのちゃんより強そうですが、小さなえのちゃんに分かってほしいと話します。えのちゃんは話を聞くと、「～したのは〇〇ちゃんが悪い」でも「～したのは△△ちゃんが悪い」と判断します。大きな二人は、えのちゃんの言葉を聞いて、「ごめんね」「ごめんね」と謝るという場面がよくありました。子どもの中で「えのちゃんは正しい」という信頼感があり、えのちゃんが言うんだっただけという納得感もあったように思います。このえのちゃんの素晴らしいところは、部分的に悪いところを指摘して、全部が悪いわけではないけど、ここは悪いと言うので、言われた子も納得しやすいということでした。そして、好き嫌いをなく誰にでも公平に接してくれるという信頼感もあったように思います。

リーダーに共通することや大切なことはたくさんあると思いますが、**公平であること、正しいことは大切な要素**であると思います。大人になれば、先見性がある、正しい方向に導くなど、正しい判断をするための知識や経験も必要ですし、思いやりなど人格者であることも必須であると思います。これらはリーダーに限らず、すべての人にとって大切なことで、子どもたちにはどの子にもこれらの資質を育てていきたいものです。そう考えると、**公平であること、好き嫌いをしないということ等も教えていくことは大切なのではないかと思います。「だれにでも やさしい気持ち もてるかな?」は、ある教え子が作った人権標語ですが、好きな人にだけ優しくするのはない**というところに価値があると思います。その子もリーダー性は抜群でした。

私が若かりし頃、退職した校長先生からいただいた本の中に、昭和31年発行「児童心理7月号」という貴重な本があります。私が生まれる前の本ですが、その本の中で上武正二氏(東京教育大学教授)は**リーダーの優越性を①身体的優越性、②知的優越性、③情意的特性(落ち着き、活発、勇気、意欲、突進力、持続性など)、④人格的徳的特性(利己的でないことなど)の4点に**まとめています。つまり、リーダーの資質は今も昔も変わることはありません。その本の中で 続有 恒氏(名古屋大学教授)はボスについて「集団の中で極端な自己主張や自己の場所の固守等は、ちょっかいを出したり、喧嘩をしたりすることと共に、学級内での自己の位置を定める行動だということができ、この学級内での位置は、いわゆるボス・システムとして形成されていくもののようなものである。(中略)このようなシステムの頂点に立って、他のメンバーを指揮し、服従させるものが、いわゆる『ボス』といわれるものであろう。」と述べています。リーダーとボスを識別することは必ずしも容易ではないし、リーダーに認められる特性はボスにも大抵あてはまることも述べていますが、「ボスは明らかに独裁的リーダーの典型と考えられる」とも述べており、ボスは力関係での強者であり、必ずしも公平さ、正義感、徳性を備えているとは限らないと言えるようです。

ボスが力関係で生まれるものであれば、集団があれば生まれるものと言えそうです。力で頂点に立ったボスが公平さ、正義感、徳性も備えていてくれたら有難いのですが、そうでない場合もありますので、一人ひとりの中に公平さや正義感、徳性を育てていくことが大切だと思います。全員にリーダー的資質が少しずつでもできれば、次第に望ましい集団になると思われしますので、6月はご家庭でも、ぜひ、いじめ防止についてお子様と考えていただき、一人ひとりのお子様がいじめをしない、許さないリーダー的資質のある子に育ちますようお願いいたします。よろしくお願いたします。

(参考文献:「児童心理 第十巻第七号 金子書房」昭和31年7月1日発行)